

## W12c 「あかり」中間赤外線全天サーベイカタログ

石原大助、尾中敬、藤原英明、左近樹(東大理)、片ざ宏一、瀧田怜、和田武彦、松原英雄、大藪進喜、板由房、大山陽一、上水和典、中川貴雄、長谷川直、山村一誠、山内千里 (ISAS/JAXA)、上野宗孝、土井靖生(東京総合文化)、芝井広(阪大理)、Caros Alfagem、Craig Stephenson、Pedro Garcia-Lario(ESA)、あかりチーム

赤外線天文衛星「あかり」は主目的の一つとして、波長 9–200  $\mu\text{m}$  の 6 つの赤外線波長帯での全天サーベイ観測を行った。このうち、近・中間赤外線カメラ (IRC) を使用した中間赤外線での全天サーベイは、

波長 9  $\mu\text{m}$  および 18  $\mu\text{m}$  中心の 2 つの広域帯を用いて、9 秒角以下の空間分解能、1 回スキャンあたりの点源検出限界 ( $5\sigma$ ) はそれぞれ 50 mJy、120 mJy を達成し、全天の 90% 以上をカバーした。過去の IRAS 全天サーベイの 12  $\mu\text{m}$ 、25  $\mu\text{m}$  帯より深い感度と高い空間分解能により、多くの天体をこの波長帯で新検出している。

現在、点源カタログ公開の準備が進められている。初版のカタログには約 70 万天体が含まれ、フラックス精度は数%、位置決定精度は数秒角と見積もられる。本講演では、あかり中間赤外線全天サーベイデータおよび一般に公開されるカタログの特徴を紹介する。